



NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
7月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～一関市の地域医療を考える～
- 4 | 団体紹介～小梨ジュニアリーダーズクラブ「ボランペ」～(千厩)
- 5 | 地域紹介～東山町 三室自治会～(東山)
- 6 | 企業紹介～室根総合開発株式会社 ～(室根)
- 7 | センターの〇〇～まちづくりコーディネーター養成講座～

一関市の地域医療を考える

対談者 一般社団法人一関市医師会 会長 小野寺威夫 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

誰もが健康で明るいまちを目指す

【センター長】先生は小野寺内科医循環器科医院の院長であり、一関市医師会の会長を務めています。一関市医師会は市内のお医者さん方の組織と認識していますが、具体的にはどのような活動をされているのでしょうか。

【医師会長】私たち医師会は、市民の皆様の健康を守り適切な治療を受けられる態勢を作る活動をしています。具体的には、日常の診療、祝祭日の在宅当番医制、平日の小児成人夜間救急に関わる救急医療があります。それから、乳幼児健診、特定健診、後期高齢者健診、各種企業の健診業務、インフルエンザを始めとする予防接種、乳幼児予防接種などの各種予防接種業務、幼稚園や小・中学校の園医・学校医業務。さらには、各種企業の産業医や市民を対象とした講演会活動の開催などがあります。



一関市医師会
小野寺 威夫 会長
さん

【センター長】個々の医院の業務以外にも組織としての業務があり、医師会としてチームを作って活動をしていて業務的にはかなりのボリュームですね。

【医師会長】そうですね。年々増えています。予防接種の数も増えてきています。50人以上の従業員がいる企業には産業医を付ける義務があり、それに満たない企業には一関地域産業保健センターが対応します

が、そこにも医師会が協力して事後指導のため各企業に個別に赴くこともあります。

【センター長】お医者さんは日ごろ身近な存在ですが、医師会の組織は遠い存在となってしまいがちです。しかし、先生のお話から医師会の活動は目に見えていて身近にあると感じました。ところで、医師会として抱えている課題は何かあるのでしょうか。

【医師会長】一つは、全国的な問題ですが地方の医師不足です。医師が都会に集中しています。そして、看護師不足もあります。また、開業医は新規開業が増えておらず、勤務医も医師不足で高齢化しています。特に磐井病院のような基幹病院では研修医の数が不足していて、院長や副院長クラスも当直を担っていて、かなりきつい状況です。

二つは、救急業務の増加です。それが急変や重症であれば受けるのは当然ですが、入院を伴うような重症ではなく軽症な患者が多いというのが問題です。また、確信犯的な場合で、昼働いているから夜に受診するという、いわゆるコンビニ受診というものです。空いて良かった24時間やっているという感覚なのでしょうか。夜間の外来はあくまでも緊急の場合であり、空いているから来る所では無いのです。

望ましい地域医療の姿を考える

【センター長】地方の医師不足は聞いてはいましたが、そのような実情を初めて聞きました。市民一人ひとりの資質が問われていますね。

【医師会長】それが重要なことです。今は地域医療が崩壊しかけてきている所が多くなっています。なぜかという、楽しみも少ない所の病院で医師が激務を強いられ、いろいろな要求も多く何か事が起これば訴訟

となります。こんなことではとてもやっていけないと
まちを去る医師が少なからずいます。医師も人間です
ので、その土地になじみ地域の住民と接することで長
く住み着くようになります。働き甲斐があるわけです。
今そのようなことに気づき、自分達の医療は自分達で
守るという動きも出てきました。ボランティアグルー
プが協力して、例えば、勤務医の独身医師達に手作り
弁当を届けるなど居心地の良い環境を作っていこう
と成功している所もあります。



【センター長】先生方が良い環境の下で働いていただ
ければ、その地域の医療環境も良くなるわけですね。

【医師会長】そうですね。県立千厩病院では「朝顔の
たね」というボランティアグループがあり、病院の現
状を理解してグループの方から正しい受診の仕方を
呼び掛けています。病院へは不安で受診しに来るので
時間外が全部ダメというわけではないのですが、少し
でも不要不急の受診は避けてもらうことで、重症患者
へ掛ける手が不足しないようになります。

【センター長】地域医療は地域づくりには欠かせない
キーワードですが、うまく形成していくことは難しい
ものだと思います。千厩病院の例は地域医療の理想の
姿かと思います。総合病院だけでなく小さな病院でも
病院を支えてくれる人達が増えてくるのが理想で
すが、個人病院でもそのような例はあるのでしょうか。

【医師会長】個人病院はまだだと思いますが、一関病
院には在宅緩和ケア I ZAKのリボンの会、磐井病院
にばっきゃの会というボランティアグループがあり
ます。

【センター長】地域の中で、地域の医療の現状や適正
利用などを話し合うグループがあると病院と地域と
の連携がうまくいくのかと思いました。

【医師会長】昨年11月の「地域医療を守り育てる市
民フォーラム」では各病院の窮状をお話ししました。
その中で適正受診の訴えをしたのですが、そこに来た
人は状況を理解している人達で、一番知ってほしい人
はなかなか来てくれません。そこが一番頭の痛い事で

す。そのような人に限って不要不急の受診をしてしま
う傾向があります。

【センター長】全国的に医師不足と言われていますが、
解消のために実施していることはあるのでしょうか。

【医師会長】地方に残る医師を確保するために医学部
の定員の中で地方枠を作り、その枠の学生を援助する
システムを作っています。卒業後何年か岩手県などで
働いてもらうことを条件に、それまで提供したお金は
返済しないで良いようにしています。現在、一関市で
は3人を支援しています。卒業後は県内の公的病院、
中核病院で仕事をしてもらう制度です。

今度、仙台市に新医学部が作られますが、根本的な
解決にはならないと考えます。そのことで東北から医
師たちが新医学部の指導者に入り、かえって医師不足
が加速する恐れがあります。

正しい食生活とかかりつけ医で健康を保つ

【センター長】最後になりますが、市民が明るく元気
に生き生きと暮らすためにはどのようなことが必要
でしょうか。

【医師会長】これはみんなが思い願うことです。元気
で長生きしてコロっと死にたい。そのためにはそれな
りの代償を払わなければなりません。常日ごろから食
生活、生活、たばこ、適度のアルコール、適度の運動
などを心がけること、地域的には脳卒中が多いので普
段から塩分を取り過ぎない様に心がけることが大切
です。食生活は習慣ですから小さいうちにきちんとし
た食生活を教えなければ将来に影響が出てきます。そ
のような積み重ねが予防医学となります。病気になっ
てからではなく病気にならないように普段から心が
ける、それが明るく生き生きにつながるでしょう。大
人になれば健康診断を受診し、異常があれば早期に治
療を行うことです。

また、医師会でも提唱していますが、かかりつけ医
を作ってください。かかりつけ医は、家庭の日常的な
診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのこ
とです。日ごろからかかりつけ医と接することで、病
気のことはもちろん、生活上の悩みなども相談に乗っ
てもらい明るく健康に暮らしていけることでしょう。

基本情報

【一般社団法人 一関市医師会】

会長 小野寺威夫

〒021-0884 一関市大手町3番40号

TEL：0191-23-8811 FAX：0191-23-9955

小梨ジュニアリーダークラブ「ボランペ」

団体 紹介



左から、
千葉秀一さん、遠藤京花さん、
菊地唯さん、菅原裕美さん

～基本情報～

- ◆会 長：遠藤京花さん（千厩高校 3 年）
- ◆事務局：千葉秀一さん
- ◆平成 27 年度登録者数：40 名
- ◆連絡先：〒029-0802
一関市千厩町小梨字堂ヶ崎 30-5
- ◆電 話：0191-52-2496（小梨市民センター）

地域との交流で育つ次世代のリーダーたち

「ボランティアをやっぺ！」→「ボランペ」

千厩町小梨地区の中高生を中心に、結成から 30 年以上、地域の子供会指導や行事への協力活動等を行っている小梨ジュニアリーダークラブ「ボランペ」。結成時から現在までリーダー達を指導してきた千葉秀一さんと現役リーダーの皆さんにお話を伺いました。

ボランペは、昭和 58 年から昭和 60 年まで（財）あしたの日本を創る協会が主催した児童青少年健全育成助成事業の農村モデル地区として小梨地区が指定されたことをきっかけに、従来から公民館の青少年育成事業でキャンプや子供会指導のリーダーとして活躍していた中高生を中心に昭和 58 年 7 月に発足。

大都市モデル地区に指定された東京都世田谷区太子堂地区とは、昭和 60 年から両地区の小学生がお互いの地域を訪問し合う PALPAL 交流が続けられています。ボランペは、東京へ行く春 PAL 交流では引率リーダー、東京の子ども達が来る夏 PAL 交流では、キャンプリーダー、プレイリーダーとして小学生を指導します。

頼れる地域のリーダー達

都会と田舎のカルチャーギャップを体験し、人とのふれあい等を学ぶことを目的とした PALPAL 交流ですが、子ども達を引っ張るリーダー達の姿を見ることで、ボランペ入会のきっかけにもなっています。「PALPAL 交流や放課後子ども教室等でお世話してくれたリーダー達にあこがれていたのが、自然と自分も中学生になったらボランペに入ろうと思っていた」と話す会長の遠藤さん。千葉さんも「カッコいいと思われるリーダーになれ」といつも指導しているそうです。

中学生になり、ボランペに入れば自分が子ども達を

指導する立場になり、地域行事にも積極的に参加します。小梨地区のメイン行事である地区民祭では、会場準備の他に、食べ物の販売やゲームを行うボランペコーナーの企画・運営までこなします。

活動を通して見据える地域の明日

PALPAL 交流での都会の生活体験、ボランペでの地域との交流等、活動のすべてが自分たちが暮らす地域を見つめ直す場となっています。

「PALPAL 交流を通して、東京は便利だけど住む場所ではないかなと感じた。でも、将来の夢やこれからの地域のために一度外に出て学ぶことも必要。少子高齢化が進み、地域行事の運営等が難しくなる中でボランペの存在はより大きくなると思う。卒業しても OB・OG として活動を支援したい」と話すリーダー達の姿を見て、千葉さんは「こういうことを考えさせるのがボランペの役割。リーダー達は家と学校の往復だけの生活をしている子より濃い生活をしているはず。これからは OB・OG 達との関わりをもっと密にして彼らの外からの視線を取り込んでいきたい。若者との交流によって自分も若返る。あるときは親、あるときはお兄ちゃん、あるときは家族として、立場を変えながら接していくのが青少年育成のポイントかと 30 年間の指導の中で感じている。地域の状況は変わってきているが基本的な部分は引き継がせていきたい」と語ります。

これからも、若者と地域をつなぐ場、地域の担い手が育つ場として、ボランペの活動は続いていきます。



地区民祭でのボランペコーナー

地域 紹介



左 新自治会長 千葉 勝さん
右 旧自治会長 細川 健司さん

～基本情報～

- ◆自治会長：千葉勝さん
- ◆67世帯が暮らす三室自治会。地域の魅力を発信する記録集「三室の輝き」の作成・発行や、講演会の開催をはじめとした地域おこし事業をはじめ、自治会の「結い」の精神が高まっている地域です。

話し合いがすぐにまとまる地域の秘密とは

東山町の松川地域にある三室自治会では、住民有志の実行委員会を組織して平成23年度から平成25年度にかけて、3か年にわたる地域おこし事業「ふるさと発見、ふるさとを伝える三室地域づくり」を地域一丸となって実施。67世帯が暮らす自治会活動を成功させたヒントについて、新旧の自治会長のお2人にお話を伺いました。

夢を見ながら飲んでいた

自治会の地域づくりについて、「楽しんでやることですね」と語るのは旧自治会長の細川さん。「使命感、義務感だと、飽きがきたり、嫌だ、となります。負担になったら続きません」という言葉からは、地域づくりのヒントが見えてきそうです。

およそ半世紀以上前に建設され、平成14年に増設を行った三室公民館には、焼酎、ビール、お茶などが常備してあるそうです。「何かの相談だから、という固い言葉では人が来なくなります。会議の3回のうち2回は飲み会です(笑)」という言葉を受けて実際に行ってみると、広さ4～50畳はある建物の中に、「足が痛くならない和室用のイス」をはじめ、「持ってくるなと言っても持ってくるんです」という飲みニケーションに欠かせない飲み物がおいてありました。

「雰囲気がよくなって、だんだん人が集まってきます。自治会の中でつくった特別委員会ですが、10数人から始まって、今は22人となっています」と細川さんは語ります。

地域の人たちはその道のプロの人

地域おこし事業の実行委員長であり、新自治会長の千葉さんは、「奈良坂峠に石を彫って積んだ時に、業者から50万円と言われたんだけど、半額の金額にして

もらったり、記録集の発行をするときに、本来はもっとお金がかかることを1冊2000円にしてもらったんだよ」と交渉術がキラリと光ります。取材当日、時間に遅れそうなスタッフに「ドローンで来れば早いよ」とアドバイスするなど、ユーモアたっぷり。

「この事業のメンバーは経歴が違う人だったんです。会社の社長だったり、市役所職員だったり、先生だったり。それぞれ違う職業の出身の人たちでよかったですね。地域おこしは、そういうところをうまくカバーすればいいんじゃないでしょうか」と語る細川さんは、2000枚以上にわたる写真を自費で購入したカメラで撮影し、美しい写真が豊富な「三室の輝き」の出版を影で大きく支えてきました。

千葉さんのコミュニケーション術と細川さんの豊かな感性が大きな力になった三室の地域おこし。「三室の輝きは国立図書館にも寄贈したい」と、笑顔で語ってくれました。

三室の魅力を伝える「三室の輝き」

3年間の地域づくりの集大成ともいえる「三室の輝き」は、「三室のすがた」「三室の歴史と文化」「三室の地域おこし」「三室の地域活動」「懐かしの写真」「あとがき」の各章で構成されています。この蔵書はいちのせき市民活動センターをはじめ、市内の図書館にて閲覧することができます。楽しみながら行ったという地域おこしのヒントを、冊子の中を探してみたいはいかがでしょうか。



石を探し、運び、基礎を作るところまで自分たちで行った「奈良坂峠」の石碑。みんなで話した内容がこのように形になるのはとても達成感があるといえます。自治会長さんに案内して頂きました。

企業 紹介



業務部長
小山 安男さん

～基本情報～

- ◆代表取締役社長：小野寺 規夫さん
- ◆連絡先：〒029-1202
一関市室根町折壁字梅木 14-2
- ◆電話：0191-64-3888
- ◆FAX：0191-64-3889
- ◆<http://www.muronet.co.jp>

地域資源を活用した地場産業とまちづくり

地場産業で地域発信

「3つの宝『宝の山』室根山『宝の石』室根石『地域の宝』室根総合開発」自分たちの地域にどのような宝（地域資源）が眠っているのか。その宝をどう活かし、どう発信していくべきか―。

一関市に合併する以前の平成9年4月、当時の室根村では「21世紀に輝く村づくり」を推進するため、官・民の共同出資（当時の村が55%）第3セクターとして室根総合開発株式会社を設立。同社は、自然豊かなこの村の恵まれた資源の高度利用開発と地場産業を通じた村の発展の担い手としてスタートを切りました。

現在は、地域内の企業主9名が取締役となり、庶務経理・石化事業・受託事業・物産事業を下部組織に、平成19年からは、室根高原周辺大東地域側の併設施設管理も担い、地域資源・施設を利活用した事業が行われ、地域雇用の場の確保、市内外からの観光の受け入れ等地域に潤いを与えています。

地域資源を知る

北上高地の南部の独立峰として知られる室根山は、一関市室根町にある山。周囲1495ヘクタール、標高は約895mあり、山頂からは太平洋を含む360°のパノラマが望め、春はつつじのピンク色、初夏は濃い緑、秋は紅葉、冬の雪化粧。四季折々の自然の姿で私たちを楽しませてくれます。

また室根町には、古来より恵まれた花崗岩の自然石群が各所にみられ、地域に産する自然石群を総称して「室根石」と呼ばれています。この室根石は従来の墓石や建築用材のほか、庭園や親水公園などの環境保全、環境整備用として全国各地から脚光を浴びています。

「石は永久に保存ができ、かつ公害になりません。石材の活用は、生活環境はもとより自然環境の保全や社

会環境の改善に大きく役立つんですよ」と語るのは同社業務部長の小山さん。地域資源をよく把握している一人です。「しかし石というのは、形がいいからこの値段、色が良いからこの値段というように、もともと値段がなく職人が発掘された石の現状で決めていたものです。それでは買い手が納得しなかったり、不安になったりしますよね？」と続けます。

小山さんは、地域資源である室根石に、石材規格に見合った価格を表示することで流通の仕組みを変えました。「地域資源を把握した上で価格表を提示したことによって、求めるお客様も納得し安心してご購入いただけるようになったと思います」小山さんは、同社のホームページ作成、ポスター・チラシ・パンフレット作成も行っており「最大限地域の魅力が伝わるよう、手に取ってくれる方の目線で考えて作成しています」と語っていただきました。

地域への感謝 春のむろね石まつり

同社では、地域の石に興味を持ってもらうため、また地域の方々へ日頃の感謝を込めて毎年「春のむろね石まつり」を開催しています。室根石や天然石の他、輸入石を使用し可愛らしい動物に加工した置物等幅広く品物を取り扱うほか、むろねーじゅワイン等地域特産品販売しています。イベントでは、手打ちそばや自家製石窯ピザ、お餅のお振る舞いも大人気。

これからの季節、室根高原でのイベントも企画しているとのこと。「自然豊かな室根へぜひいらしてください」と笑顔で語っていただきました。



同社に隣接している産直むろねっこだは、地域の新鮮なお野菜も購入できます。



センターの〇〇!

— まちづくりコーディネーター養成講座 —

「協働のまちづくり」が推進されている昨今、地域コミュニティやNPOが地域で担う役割も大きくなってきています。さらに、団体のリーダーや事務局、役員のみなさまは会議などで進行役や調整役といった「コーディネーター」としての役割も求められてくるのではないのでしょうか？そこで、当センターでは、地域づくり活動における基本的な考え方や進め方等の知識を学んでいただこうと、ステップアップ形式の講座を6月6日からスタート致しました。ステップ1では「まちづくりコーディネーター概論～地域づくりと地域福祉と私たちの進む道～」と題し、一関市社会福祉協議会の菅原さんと、当センター長小野寺が講師を務めました。

1

まちづくり概論



9:30～
10:50

午前中前半に行った「まちづくり概論」では、人口減少社会って何だ？という疑問に視点を当て、講義をスタート。時代の変化に合わせて地域の姿を変えていくための具体例を説明。地域づくりの背景について学んだあとは、コーディネーターとしての心構えについて学びました。

2

地域福祉概論



11:00～
12:00

午前中後半に行った「地域福祉概論」では、「地域福祉とは？」に視点を当て、「ふくし」という文字の頭文字を取って「ふだんのくらしのしあわせ」を実現させる営みであることを再認識。午前中に学んだ「地域づくり」との関係性について触れ、異なる分野の目指すところが同じであることを学びました。

3

グループ討議



14:00～
14:45

グループ討議の時間には、「T型集落点検」をテーマに討議を実施。どのグループでも沢山の意見が出され、5人1グループの「ミニ集落」を持つ様々な課題や、「どうやったら人が戻ってくるのか？」といった話題について、活発な議論がなされました。最後はグループごとに発表して共有です。

4

センター試験・答え合わせ



前半・
後半

講座の最後には、講座の開始前に行った「センター試験」の答え合わせを実施。「地域づくりの起爆剤になる三要素に相応しくないものを、以下の中から一つ選択してください」という難問に対しては、「よその」「わかもの」「ばかもの」「声の大きい人」の中から1つを選択。答えはセンタースタッフまで！

次のまちづくりコーディネーター養成講座は・・・

開催日 平成27年7月4日(土)
講座時間 9:20～15:00(お昼は各自でご準備ください)
開催場所 なのはなプラザ
受講料 2000円(1回のみ参加でも、6回すべて参加でも一律料金)
テーマ 話し合いの仕方(ファシリテーション)

お問い合わせ・お申し込みは
「いちのせき市民活動センター」
電話 0191-26-6400
までお気軽に!

おしらせ

一関 まちづくりコーディネーター養成講座

地域づくり活動における大きなポイントである、より良い'話し合いの場'をつくるためのポイントを学び、実際に体験・実践して頂きます。ファシリテーションについて学べる貴重なチャンスです！

【日時】 平成27年7月4日(土) 9時20分~15時
【場所】 なのはなプラザ4階共同会議室
【料金】 2,000円(全6回の講座すべて含む)
【問合せ】 いちのせき市民活動センター
【電話】 0191-26-6400

千厩 Hana金!

参加者同士の自然な会話・交流の中で、お悩みの解決策を探ったり、企画を膨らませていく、新しいようで自然な空間です。誰でも自由に参加出来ます。話したい人はもちろん、聞きたい人も!今回は「お悩み共有大会」♪

【日時】 平成27年8月21日(金) 18時45分~21時
【場所】 せんまやサテライト
【料金】 300円(コピル・ドリンクつき)
【問合せ】 せんまやサテライト
【電話】 0191-48-3735

一関 いちのせき市民フェスタ 15

一関の市民活動の1年に一度のお祭りが今年も開催されます!体験・販売・発表ブースを始めとおもちゃなどのご当地キャラクター、地元グルメ、いちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」も開催!

【日時】 平成27年8月23日(日) 10時~15時
【場所】 なのはなプラザ
【料金】 無料
【問合せ】 いちのせき市民活動センター
【電話】 0191-26-6400

大東 レクリエーション研修会

大東町レクリエーション協会では、アイスブレーキング、C・S・S、階段づくりなどのテーマでレクリエーション研修会を開催します。レク材を覚える前のイ・ロ・ハを目的に、楽しく学習!

【日時】 平成27年7月19日(日) 9時30分~12時
【場所】 大東コミュニティセンター
【料金】 無料
【持物】 タオル・飲み物・上履き・鉛筆等
【問合せ】 大東町レクリエーション協会
【電話】 090-3364-0954(松川)

東山 猫の手サービス

NPO法人ワークハウス雲では、かゆいところに手が届く!「猫の手サービス」を行っています。東山町内あるいは東山町近辺の方の畑の草取り、お家の草取り、庭の整理整頓、包丁研ぎ、1人暮らしの方の草取りなど。

【日時】 手伝ってほしい時間帯
【場所】 東山町内、東山近辺
【料金】 1時間500円(交通費200円)
【問合せ】 NPO法人ワークハウス雲
【電話】 090-7073-4985

川崎 水難救助講習会

NPO法人里山自然学校はずみの里では、北上川サポート協会との共催で水難救助講習会を開催します。ライフジャケットを着て砂鉄川から北上川へ流れてみたり、レスキューロープの使い方を学習してみませんか?

【日時】 平成27年7月18日(土) 9時30分~12時
【場所】 川崎防災センター
【料金】 500円
【持物】 着替え・替えの靴
【問合せ】 NPO法人里山自然学校はずみの里
【電話】 0191-82-3857

大東 明日への希望音楽祭

東日本大震災から4年半。震災前の沿岸被災地の模型展示「ふるさとの記憶展」のオープニングイベントとして音楽祭を行います。失われた街への追悼、震災の犠牲になった方々の鎮魂、そしてここに住む私たちが元気になるための音楽祭です。

【日時】 平成27年7月26日(日) 10時~18時30分
【場所】 大東コミュニティセンター
【料金】 大人500円(高校生以下無料)
【問合せ】 一関市摺沢市民センター
【電話】 0191-75-2229

花泉 夏越の健康祈願祭/ヨガ・足もみ体験会

東日本大震災復興祈念チャリティ企画と題し、今年も海の日に行います。ヨガは鈴木洋子先生(仙台市・月紅YOGA)足もみは石川里美・遠藤寛子先生(仙台市・OVERLAP)が担当します。復興と健康・心願成就を祈念し、お誘い合わせの上ご参加ください。

【日時】 平成27年7月20日(月)海の日
【場所】 御嶽山御嶽神社(一関市花泉町老松字水沢屋敷161-2)
【料金】 参加費大人1人2,000円(小学生以下半額)
 ※初穂料、体験料(ヨガ・足もみどちらか1つ)、復興応援金を含みます。2つの体験希望は3,000円です。
【問合せ】 御嶽山御嶽神社
【電話】 0191-82-3382

川崎 川っ子祭り

今年も川っ子祭りの季節がやってきました!!普段できない「川とのふれあい」を皆さんに体験してもらうために毎年開催しています。楽しいイベント盛りだくさん!ご家族・ご友人お誘い合わせの上、ご来場ください。

【日時】 平成27年7月26日(日) 9時30分~14時
【場所】 川崎防災センター付近の北上川(駐車場は川崎防災センター)
【料金】 9:30~14:00: カヌー体験100円、長生丸乗船体験200円、水上バイク体験300円 11:30~12:30: 人間カールリング「タライでトライ」1チーム3名で600円
【問合せ】 NPO法人北上川サポート協会
【電話】 0191-36-5666

今月の表紙



写真は千厩町小梨にある「村上家住宅」。江戸時代末期以前に建てられたとされるかやぶき住宅で、主屋や馬屋など懐かしい民家の情景を今に伝えてくれています。建物も保存状態がよく、平成8年に県の有形文化財に指定されています。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPOは非営利だからお金をもらってはいけない?②

A 専従の職員を雇った場合、お給料は、NPO活動を行うための人的必要経費(人件費)となり、活動するために家賃や光熱費を支払うのと同様に、利益分配にはなりません。NPOの事業運営が、安定して力がつけば、団体として人を雇用することができ、現在の失業問題の改善に、NPO団体が寄与する可能性もあるといえます。

